

「平成21年 水質年報」の発行について

1. 独立行政法人水資源機構では、平成21年の定期水質調査結果等を取りまとめた「平成21年 水質年報」を作成しました。(別紙参照)
2. 「平成21年 水質年報」は、独立行政法人水資源機構ホームページ上で公表しております。

(ホームページアドレス <http://www.water.go.jp>)

また、「平成21年 水質年報」の冊子は、利水者、関係機関等に配布する予定としております。

平成22年7月15日(木)
独立行政法人水資源機構

発表記者クラブ

国土交通記者会、水資源記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 環境室

水環境課長

よしぐち のぶあき
吉口 進朗

水環境課

ひろせ まさよし
廣瀬 真由

電 話 048-600-6556

「平成21年 水質年報」について

1. 水質年報の内容

- 「平成21年 水質年報」は、独立行政法人水資源機構（以下「機構」という。）の管理施設において、平成21年に機構が実施（他機関との共同実施を含む。）した定期水質調査結果を中心に、当該年の水質の特徴、水質の経月変化、経年変化、植物プランクトンの異常増殖・濁水長期化の状況と対応等についてとりまとめたものです。
- 水質年報は、「総括」及び「個別施設の状況」で構成しています。なお、「総括」では、機構施設の水質概況等について、「個別施設の状況」では、施設ごとに以下の項目についてとりまとめています。

1. 施設諸元	7. 水質の経年変化
2. 水質基本情報	8. 気象・流況グラフ
3. 水質調査の実施状況	9. 植物プランクトンの異常増殖及び濁水長期化の状況と対応
4. 水質の概況	10. 水質対策施設
5. 水質調査結果	11. 水質調査機関
6. 水質の経月変化	
- 昨年とりまとめた「平成20年 水質年報」に対して頂いたご意見をもとに、「総括」に、「水質事故発生の状況」と「水質の保全・改善への取組み」を今回より掲載しています。

2. 平成21年の水質等の状況

- 気温・降水量
機構の施設が位置する地域（関東甲信、東海、近畿、四国及び九州北部）では、気温は平年より高く（+0.5℃～+0.7℃）、降水量は平年並でした。
- 水質
平成21年のダム貯水池の水質は、過去10年間と比較して、COD及び総窒素濃度は同程度の施設がほとんどでしたが、総リン濃度、クロロフィルa濃度及びSS濃度は、流入河川濃度の減少傾向に伴い、低くなった施設が多い状況でした。

表 ダム貯水池の水質の傾向（施設数の割合）

調査項目	高い	同程度	低い
COD（75%値）	21%（17%）	64%（75%）	14%（8%）
総窒素濃度	3%（0%）	76%（73%）	21%（27%）
総リン濃度	7%（0%）	48%（46%）	45%（54%）
クロロフィルa濃度	11%（0%）	30%（48%）	59%（52%）
SS濃度	10%（8%）	31%（21%）	59%（71%）

【注】（ ）内は流入河川の水質である。

また、平成21年の年平均値が過去10年平均の±20%以内を同程度としている。

- 植物プランクトンの異常増殖及び濁水長期化
アオコ等の植物プランクトンの異常増殖現象が、21施設で47件発生し、平成20年と比べると、施設数は3施設減少しましたが、件数は8件増加しました。また、濁水長期化については、台風18号による影響により、5施設で5件発生し、平成20年と比べると施設数は4施設、件数は4件増加しました。

【以上】